

和の光



宝塚市立西谷中学校

■入学おめでとうございます

4月10日（木）に第78回入学式を開催しました。真新しい中学校の制服を着て、新しく始まる中学校生活に夢と希望を抱いて10名の新入生を迎えることができました。本校は市内で最も小さな中学校ですが、市内で一番生徒の仲が良く、深い絆で結ばれた学校です。今日から始まる中学校生活が充実したものになるよう、在校生・教職員一同で力を合わせていきます。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。



< 式 辞 >

色鮮やかな花々が咲きほこり、春の香りが満ちあふれる季節になりました。本日このよき日に、宝塚市立西谷中学校の第78回入学式を迎えられたこと、大変嬉しく思います。ただいま、呼名をいたしました10名の新入生の皆さんご入学おめでとうございます。在校生ならびに教職員一同、心から皆さんの入学を歓迎いたします。

さて、皆さんは、中学校生活に期待と不安を感じながら今日を迎えたことと思います。「勉強についていけるだろうか」「友だちはできるだろうか」「部活動で先輩たちとうまくやっていけるだろうか」いろいろな不安があることでしょう。しかし、心配はいりません。この西谷中学校には、よき先輩、よき先生、よき保護者、よき地域の方々がたくさんいます。困った時には、一人で抱え込まず、遠慮なく周りの人に助けを求めてください。

ここで、入学にあたって皆さんに伝えたいことがあります。それは「夢を追い続けること」の大切さです。皆さんは小さい頃からアニメの「アンパンマン」をよく見てきたと思います。この「アンパンマン」の作者の「やなせたかしさん」は漫画家として世の中で認められるために40年近くかかりました。売れなくても、彼はひたすら漫画を描き続けました。好きな漫画を描けることが喜びであり、少しも苦しみはなかったそうです。そうして40年描き続け、その良さが世間の子どもから大人まで幅広く愛され、皆のアイドル「アンパンマン」になりました。

しかし、そのやなせさんも、一生のうちで、一度だけ漫画を描くことをやめようと思ったことがあるそうです。それは、東日本大震災のときです。この震災で多くの人々が家族を亡くし、家を失い、絶望のどん底に落とされました。そんな人々を見ても何もできない自分。こんな時にのんきに漫画を描いていいのか 悩み苦しんだそうです。何もできない自分に腹も立ったそうです。

そんな日々を送っていた時に、震災から数日後に、あるラジオ番組に「アンパンマンのマーチを流して下さい」というリクエストがあり、さっそく放送したところ、子どもたちがラジオに合わせて大合唱を始めたということです。また、大人たちも涙を流して感動したそうです。それからラジオ局は連日「アンパンマンのマーチ」を流しました。そのニュースを聞いて、やなせさんは、「そうか、僕にできることは、心に傷を負った子どもたちを元気づけ、励ますことなのだ」と分かったそうです。そしてアンパンマンを描き続けることこそ自分の夢なのだ実感したそうです。

皆さんは、「アンパンマンのマーチ」の歌詞を覚えていますか。この歌詞の中には「生きる喜び」「いまを生きる」という言葉がたくさん出てきます。私はこの歌詞の中で気になっていたのは、「胸の傷が痛んでも」という歌詞です。この曲の出だしは、「そうだ嬉しいんだ生きる喜び、たとえ胸の傷が痛んでも」で始まります。アンパンマンの「胸の傷」とは何なのか気になりました。しかし、彼が40年間漫画家として認められずに、苦勞をしながら生み出したキャラクターがアンパンマン。アンパンマンは強くない。強い時もあるけど、相手にも、自分にも負けそうで、弱い部分もたくさんあります。それこそが他の正義の味方と違うところなのかもしれません。人間は、そんなに強くない。むしろ失敗の連続で、悲しいことや苦しいこともある。やなせさんは、「人間は誰でも胸の傷があり、それを乗り越えた先に必ず喜びがある」と言いたいのではないかと思います。

やなせさんの言葉です。「絶望の隣は希望です。人間はこんなふうに、逆境の中でも夢を見る生き物なのだ。人は誰も幸せな人生を送りたいと願い、こうありたい、明日はそうなれるかもしれな

いと夢を追いかけていく。だからこそ、頑張れるのだ。もしかしたら、実現しないかもしれない。夢で終わってしまうかもしれない。それでも夢を追いかけていく。いつの間にかそれが生きがいになっていく。自分のやりたいことをずっと継続して、やめないこと、それが大事だ」といいます。新入生のみなさん、どうか中学校生活で何事にも一生懸命に取り組んで、自分の夢を追いかけていきましょう。

最後になりますが、保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。少し前までは、小学校に通っていた我が子が、真新しい中学校の制服に身を包み、緊張した面持ちで入学する姿を見て、感慨もひとしおのことと存じます。本日より、私たち教職員が責任を持ってお子様をお預かりいたします。現在、急激な社会の変化に伴い、さまざまな課題解決が迫られる教育現場ですが、本校では、人権尊重の精神のもと、「豊かな心、健やかな体、確かな学力」を身に付け、逞(たくま)しく社会を生き抜く生徒の育成を目指して教育を推進しています。本校教職員、一丸となってこれからの3年間、お子様の教育に当たって参りますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。以上、簡単なお挨拶となりましたが、式辞といたします。

令和6年(2024年4月10日)

宝塚市立西谷中学校長 筒井 啓介

■入学式前日の様子

新入生を迎えるために、入学式前日に2・3年生と教職員で式場と1年生の教室の準備をしました。体育館では、椅子や机などを綺麗に並べたり、入り口にお祝いのメッセージを書いたりしました。中には綺麗な花が植えられたプランターを何度も何度も運び込む生徒の姿も見られました。また、1年生の教室では、入学をお祝いする黒板アートを綺麗に手描きしたり、花飾りをつくって装飾してくれたりしました。お昼を過ぎたのに、遅くまで残って対応してくれた生徒の姿を見て、西谷中の生徒の心の優しさや、先輩から受け継いだよき伝統を感じることができました。2・3年生の皆さん一人ひとりに心からお礼を述べたいと思います。どうも有難う!!



1年生教室の黒板アートと教科書配布



式場の準備(体育館)